

学校法人KTC学園 屋久島おおぞら高等学校 学校評価

教育目標

- ・センバス教育を通じ、スクーリングの中で、直観力と共感力を磨き、養うプログラムを実施する。

※センバスとは、ラテン語のSENSUS（感覚）VIVUS（生活）からとった造語で「生きる実感」を意味する

重点目標

- ・安全に留意し、生命を大切に感じられる環境をつくる
- ・関わる全ての生徒が成長実感を得られるよう、創意工夫し続ける
- ・ホリスティック、グローバルな視点から「つながる、ひろがる」を体現する

分野領域

	目標	方策	自己点検評価	評価
学務部	・システム改善と業務内容の均一化 ・現場に合わせた仕組み作り	・システム改修により、登録・発行業務の単純化と時間短縮をしていく。 ・業務内容と業務方法の均一化により質を保つ ・定期研修と現場からの情報収集によって、現場に合わせた仕組み作りをする。	・システム化を進めることで業務時間の短縮と業務の単純化を図ることができた。 ・定期研修とマニュアルの改修により、手順・作業の質を均一にすることができた。	B
教務部	計画的な課題提出を習慣つける 思考を深める為の発問について更なる改善・工夫を施す	・計画的に課題が提出できるような課題の進捗状況についての見える化に注力する。 ・1つ1つの発問について吟味し、タイミングや表現を図り思考を深めさせる。	・四半期ごとの提出率の目標を立て、生徒の学習の進捗を管理し、教職員全体で進捗状況を可視化し、目標に達していない生徒へのアプローチを強化することができた。 ・観点評価の1つである『思考、判断、表現力』を高める為の発問や問いの文言を、教科を超えて検討・精査を重ねレポート課題へ反映することができた。	A

	目標	方策	自己点検評価	評価
進路指導部	なりたい大人について、生徒自身が考えて具体的な目標設定につなげることができる進路指導を目指す	・コーチングとみらいノートを使用した取り組みを強化してみらいを考える力を育む。 ・IONI面談の機会/内容の充実をはかり、進路目標の設定と具現化を目指す。	・みらいノート活用のための推進委員による研修の充実で、みらいノートを活用した生徒とのコミュニケーションに教職員全体で取り組むことができた。みらいノートを活用しながら生徒は進路決定につながる自分探求をすることもできていたが、みらいノート使用の習慣化や幅広い層への活用定着に課題が残る。 ・定期的に進路研修を実施し、教職員の進路指導力向上をはかることができた。	B
生徒指導部	・生徒対応力の向上 ・有事の際の備え	・疾病、疾患に関わる研修を行い、生徒を理解する力の向上を目指す。 ・問題行動対応に関わる研修を行い、生徒指導力の向上を目指す。 ・有事の際に備え年間を通して避難訓練を実施し、避難の流れを全職員把握できる状態を目指す。	年間を通した防災訓練を行い、有事における対応についての意識向上につなげることが出来た。 生徒指導力の向上については課題が残るので、次年度につなげていく。	B
保健部	・安全管理の強化 ・生徒への保健指導の強化	・計画的に校内巡視を行い、安全管理に努める。 ・スクーリング中の体調不良や怪我発生時の対応策を検討し、教職員への研修を実施する。 ・生徒が抱える健康課題について対策を検討し、保健指導を行う。	学校全体で養護観点での対策や対応を行うことが出来た。 研修を定期的に行い、スタッフ対応力向上に努めることが出来た。	B
学寮部	安全な生活の確保	安心、安全なスクーリングを運営するための施設管理及び危機管理を徹底し、生徒の特性を踏まえた指導の研修を行う。	用務チームと連携を図り、安全管理対応や対策に努めることが出来た。	B

	目標	方策	自己点検評価	評価
事務部	学校事務職員としての資質の向上、支援体制の確立	・事務職員の業務理解を深め、当事者意識の確立を目指す。 ・現場の状況を把握し、求められる支援を確実に遂行する。	業務理解を深め、求められる支援を確実にするために学校全体の動きを意識して状況の把握するように努めることが出来た。	B